Registers of Wine Present in Bruges : A Flemish City and Burgundian Court in the 15th Century

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-03-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 畑, 奈保美 メールアドレス: 所属:
URL	https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/24053

ヨーロッパ文化史研究　第 19 号
（2018 年 3 月 31 日）

研究ノート

15 世紀フランドル都市ブルッへの ぶどう酒贈与帳簿

―― フランドル都市とブルゴーニュ宮廷の関わり ――

畑　　奈保美

はじめに
1.　ぶどう酒贈与帳簿の概要
（1）　文書館での保存状況
（2）　1424–1426 年の帳簿
2.　1424–1426 年の贈与対象者
（1）　ブルゴーニュ公フィリップ善良公
（2）　尚書長
（3）　貴族・顧問官たち
（4）　聖職者
（5）　役人たち
（6）　他都市・他地域の使節
（7）　団体その他
3.　1424–1426 年の市政団への贈与
結び

はじめに

中世ヨーロッパの都市は，都市内外の要人との関係を取り結ぶために相当の交際費を支出していた。その中で目を引くのが，ぶどう酒の贈与である。ヨーロッパにおいて上層の人々の飲み物として欠かせなかったぶどう酒は，都市による贈答品として広く用いられていた。近年このことについて，長らく在パリ・ドイツ歴史研究所長を務め，宮廷・レジデンツ研究で知られるヴェルナー・パラヴィチーニがフランス，ネーデルランド，ドイツにわたる様々な事例から考察している[(1)]。都市を訪れた客人に対して歓待の意を示すため飲み物を供したのが起源と考えられるが，慣例として定着し規模も拡大していった。

中世の北西ヨーロッパにおいて著しく都市化が進んだ地域であるフランドルでも，都市によるぶどう酒の贈与は盛んに行われていた。フランドル都市の場合，これはとりわけ

(1)　Paravicini, W., Der Ehrenwein. Stadt, Adel und Herrschaft im Zeichen einer Geste, Fouquet, G., Hirschbiegel, J. & Rabeler, S.（hrsg.）, *Residenzstädte den Vormoderne.　Umrisse eines europäischen Phänomens*, Ostfildern, 2016, S. 69–151.

14 世紀末以降フランドルの君主となったブルゴーニュ公との関係という点でも重視できる。フランス王国と神聖ローマ帝国の境界地帯に次々と手を伸ばし，「ブルゴーニュ国家」とも呼ばれる領邦複合体を形成したブルゴーニュ公家は，その華やかな宮廷とともに，支配下の各地を廻っていた。諸都市にとって，常にフランドルにいるわけではない君主と宮廷が都市を訪れたり滞在したりするのは，君主と親しくコミュニケーションをとる貴重な機会であった。

従来から筆者は，フランドル都市とブルゴーニュ公との関係を考察してきたが，2017 年 3 月に機会を得て都市ブルッヘの『ぶどう酒贈与帳簿』presentwijnenregisters（ベルギー王国ブルッヘ市立文書館所蔵）を調査することができた。ブルッヘはフランドルではヘントに次ぐ大都市で（中世末の人口は推定 4 万 5 千），北ヨーロッパ有数の国際商業都市だったが，第 3 代ブルゴーニュ公フィリップ善良公（位 1419-67）の好んだ滞在地の一つであり，市内にはブルゴーニュ公の宮殿があった。そのようなブルッヘのぶどう酒贈与帳簿は，従来はブルゴーニュ公の旅程研究[(2)] や，フランドル代表制研究[(3)] において，ブルゴーニュ公や側近の所在を確認する証拠として使われてきたが，それにとどまらず，ブルゴーニュ公とその宮廷を含む都市ブルッヘの交際世界の一端が明らかになるだろう。

本稿では，都市ブルッヘのぶどう酒贈与帳簿の中から，現存する中で最も古く，連続している 2 冊（1424-1426 年）を中心にとりあげるが，まずは全体の保存状況も含めて概要を示し，次いで対象ごとに贈与の様子を紹介したい。

1.　ぶどう酒贈与帳簿の概要

(1)　文書館での保存状況

ブルッヘ市立文書館には，7 冊のぶどう酒贈与の帳簿が保存されている。最初の 2 冊は 1424-1426 年，第 3 の帳簿は 1468 年から翌年，最後の 3 冊は 1480 年代の記録である。基本的には，毎年 9 月 2 日に始まる都市ブルッヘの会計年度ごとに 1 冊となっているが，2 冊目は末尾 1 か月ほどの記録が欠けており，7 冊目は 6 か月のみの記録となっている。なお帳簿の他に，1465 年の断片が 3 枚存在している。元来は毎年度作成されていたはずだが，ほとんどが失われてしまっている。

---

(2)　Vander Linden, H.（éd.）, *Itinéraires Philippe le Bon, duc de Bourgogne*（*1419-1467*）*et de Charles, comte de Charolais*（*1433-1467*）, Bruxelles, 1940.

(3)　Blockmans, W.P.（ed.）, *Handelingen van de Leden en van de Staten van Vlaanderen*（*1419-1467*）, 3 dln., Brussel, 1990-2006.

しかしこの帳簿は元々永続的に保存される記録ではなかったのかもしれない。ブルッヘ都市会計簿の支出部には，贈与ぶどう酒という項目があり，そこには一年間の合計額だけが記されることになっていた。従ってぶどう酒贈与帳簿は都市会計簿作成の下準備に使われるものだったと考えられる。実際に，贈与帳簿には合計の欄はなく，会計検査が行われた跡もない。そして記載の一つ一つに上から薄く斜線が引かれている。これは合計を行う際につけられた印ではないだろうか。都市財政管理の観点からいえば，計算が終わってしまえば贈与帳簿を残す必要はなかったのであろう。

いわば残されたのが偶然ともいえる贈与帳簿ではあるが，都市会計簿には記載されていない情報を含んでいる。そこで以下では，1424-1426 年の最初の 2 冊をそれぞれ概観する。

(2)　1424-1426 年の帳簿

①　1424-1425 年の帳簿

外形は縦 50 cm ほど，横 18 cm ほどの縦長左綴じで，革表紙がつけられている。表紙には 17 世紀の字体で,「1424 年 9 月 2 日から 1425 年 9 月 1 日」と記載の期間が書かれている。29 葉まで記入があり，その後には未記入の数葉が綴じこまれている。記入に使用されているのは古ネーデルランド語，ローマ数字である。字体はほぼ統一されており，決まった担当者が記入したものと思われる。第 1 葉冒頭に表題として「1424 年 9 月 2 日に始まり 1425 年 9 月 1 日に終わる贈与帳簿」と記された後，土曜に始まり金曜まで 1 面で 1 週間 7 日分が記載されるようになっている。記載がない日はスペースが空けてある。しかし第 14 葉裏は，連日多くが記載されたため 3 月 10 日土曜から 13 日火曜の 4 日間でいっぱいになってしまい，続く第 15 葉は水曜から金曜までを記している。他にこのような箇所としては，第 22 葉及び裏，第 27 葉及び裏，第 28 葉及び裏が挙げられるが，そこでたとえスペースが余っても次の葉は土曜から始まる。第 29 葉には 9 月 1 日土曜の分だけが記され，その後は空白である。

各日の記述には 2 つの様式が存在する。一つは，受取人の名と贈与の量（単位はストープ stoop とゼステル zester[(4)]）を列挙した後，ストープあたりの価格と購入元（店名もしくは商人名）を記入するものである。例えば『一角獣』［店名］にてストープあたり 6 グロー

(4)　ストープは古ネーデルランド語でつぼ，ポットを意味し，容積単位として使われた。オランダ王立芸術科学アカデミー（KNAW）の下部組織で言語・文化研究部門にあたる Meertens Instituut の示すところによれば，1 ストープは地域によって差があり 2.0～2.8 リットルほどである（http://www.meertens.knaw.nl/mgw/maat/99）。フランドルでの正確な量はわからないが，上記の分量と大きく異なるとは考え難い。なおドイツ語では Stübchen にあたるようだが（Paravicini, art.cit., S. 111），同等の分量であったかは不明である。ゼステルは 16 ストープにあたる。

ト[5]」という具合である。購入元は，店名として『イーペル Ypers』『カッセルベルフ Casselberch』『盲目のロバ Blenden Ezel』『一角獣 Eenhoorne』『羊 Ram』『フランケンケ Vranckenke』『子ウサギ Hazekin』また商人として Pieter Boudins，Jan Wyaerts，Jan Metteneye，Jan Biese が挙げられているが，宿屋として知られる『盲目のロバ Blenden Ezel』での購入が最も多かった。なお，購入量が多量でなくても，一日の分を 2 か所から購入したり，半量あるいは一部の価格が異なったりする場合がみられる。ぶどう酒の価格はストープあたり 4〜8 グロートとなっているが，一日分あるいは一回の購入ごとの支払金額は記されていない。また，贈与先によってぶどう酒の価格や質が異なっていたかどうかは不明である。

もう一つの様式は，都市参審人他の役職者たち自らがぶどう酒を受け取る場合である。一人一人への贈与ではなく集団に与えられる形となっている。都市会計簿の記述に似て，文章で，購入先，全体の購入量，贈与の機会，単位あたりの価格が述べられ，最後に支払金額が計算されている。また，先の様式ではぶどう酒の産地や種類について全く言及はなかったが，ここではしばしばライン産と示される。全体を通じてそれ以外の産地は挙げられていない。フランドルではほとんどぶどう酒は作られておらず，輸入に頼っていた。パラヴィチーニによればフランドル，ブラバント，ハンザ圏ではライン産ぶどう酒が支配的だった[6]。国際商業都市ブルッヘにおいて他の産地のぶどう酒が入っていなかったとも考えにくいが，贈与用としてライン産が好まれたということかもしれない。

②　1425-1426 年の帳簿

外形は前年度の帳簿とほぼ同じで，革表紙，縦長左綴じであるが，横幅が若干長い。表紙には 15 世紀の字体で「贈与帳簿」presentbouc と記され，その下に薄くて判別できないが記載期間らしい数字が書かれている。24 葉からなり，古ネーデルランド語，ローマ数字が使われている。字体はほぼ統一されているが，前年度の帳簿と同一かどうかは判断が難しい。第 1 葉の上部が傷んでいて，おそらく表題と思われる 4 行の全体と，続く 4 行の右半分の字が極めて薄く，判読できない。

1 面で土曜から金曜まで 1 週間 7 日分を記載するのは前年度帳簿と同様であり，最後まで踏襲されている。前年度帳簿では記述が多くなって週の途中で次頁に移る場合があったが，この帳簿ではみられない。しかし最後の第 24 葉裏の記載は 8 月 2 日金曜までである。葉を切り取った跡がないので，8 月 3 日以降は別の場所に書かれたとも考えられる。

(5)　グロート groot は古ネーデルランド語の貨幣単位で 1 グロート =1 ペニング penning としてフランス語のドゥニエ denier に相当する。1 ポンド pond（リーヴル）=20 スケリンゲン schellingen（スー）=240 ペニンゲン penningen（ドゥニエ）の体系で計算されるが，1 フランドル・グロートはパリ貨 12 ドゥニエにあたる。

(6)　Paravicini, art.cit., S. 109.

各日の記載は，前年度と同様に，受取人を列挙する方式と集団的に贈与される方式に分かれており，基本的にはそれぞれにおいて前年度の書き方からの大きな変化は見られない。だがこの帳簿においてはところどころで一日の合計量や合計金額が右側の空白部分に書き留められ，その中にはアラビア数字も散見される。正式の記載ではなく，計算のためのメモのような書き方である。

ぶどう酒の購入に関しては，前年度の購入元『盲目のロバ』『一角獣』『羊』『子ウサギ』などに加え，新しい購入元として『ばらの木』Rooseboom，『グリフィン』Griffoen などが登場している。やはり『盲目のロバ』での購入が年間を通じて目立つ。商人では Jan Bortoen，Joris Ruebs，Pieter Hostelaerts，Roegier vander Schichle，Jan de Rike，Roegier Lappostole，Jan van Wijc，Jacop van den Rake などが挙げられ，前年度の顔ぶれから一変している。

第 10 葉裏の 1 月 18 日金曜の記載では，この帳簿で唯一，ぶどう酒の色に言及がある。この日，22 ストープの白ぶどう酒をストープあたり 8 グロートで『盲目のロバ』から，10 ストープの赤ぶどう酒をストープあたり 5 グロートで Roegier Lappostole から購入している。前年度同様，一日の分を 2 か所から購入したり，半量あるいは一部の価格が異なったりする場合は，このようにぶどう酒の種類に違いがあった可能性が考えられる。

2.　1424–1426 年の贈与対象者

以下では，贈与帳簿において贈与先として挙げられた（前項で述べた第一の様式にみられる）人々をとりあげる。帳簿での言及では個人名，位，職名等が混在する。まずは贈与の量と回数において突出する，君主ブルゴーニュ公及び尚書長（chancelier）を抽出する。次いで，個人名ないし伯・領主などの肩書で示される俗人の貴族・顧問官，職名で示される高位聖職者，官職者，都市や地域の代表・使節などに分けて整理する。

(1)　ブルゴーニュ公フィリップ善良公

表 1　フィリップ善良公に対する都市ブルッヘのぶどう酒贈与（1424 年 9 月～1426 年 7 月）

期間	日数	備考
1425 年 3 月 9 日～27 日（22 日・26 日除く）	17	3 月 22 日宴会（別贈与）
1425 年 4 月 27 日～5 月 1 日	5	5 月 2 日聖血の行列（別贈与）
1425 年 5 月 13 日～25 日	13	

1425 年 6 月 12 日～22 日	11	
1425 年 8 月 16 日～9 月 12 日	28	
1426 年 3 月 27 日～4 月 17 日（3 月 31 日除く）	21	3 月 31 日復活祭（別贈与）
1426 年 5 月 4 日～13 日	10	5 月 2 日聖血の行列（別贈与）

ぶどう酒贈与帳簿において，ブルゴーニュ公がブルッヘに滞在する時は毎日 32 ストープのぶどう酒が贈られている。これは個人に対する贈与としては最大の量となる。当然，家中の者たちに分けられたと思われるが，当時フィリップ善良公はフランドルに妃を同伴しておらず，嫡子もいなかった[7]。

1424 年秋から 1426 年夏にかけて，フランドルと都市ブルッヘにおいて大きな事件はなかった。しかし君主の滞在時には，彼を目掛けて様々な問題が持ち込まれる。さらに，1425 年 1 月にホラント・ゼーラント・エノーの三伯領の主であるジャン・ド・バヴィエール（ヴィッテルスバッハ家）が死去し，その後継をめぐる争いにフィリップ善良公が乗り出したため，宮廷の周辺は慌ただしさを増していた。1425 年 8～9 月のブルッヘ滞在の後，善良公はブルッヘの外港スライスからホラント継承戦争に出陣している[8]。

なお，表 1 に示したように，君主の滞在中にもかかわらず贈与が行われなかった日は，ほとんどの場合，後述する市政団への贈与の中に君主への贈与もまとめられていた。

(2)　尚書長（chancelier）

表 2　尚書長に対する都市ブルッヘのぶどう酒贈与（1424 年 9 月～1426 年 7 月）

期間	日数	備考
1425 年 8 月 27 日～9 月 13 日	18	善良公にほぼ随行
1425 年 11 月 13 日～20 日	8	
1425 年 11 月 28 日～12 月 12 日	15	
1425 年 12 月 29 日～1426 年 1 月 2 日	5	
1426 年 1 月 21 日～29 日	9	
1426 年 3 月 23 日～4 月 17 日	26	善良公にほぼ随行

(7)　フィリップ善良公は最初の妃ミシェル・ド・フランスを 1422 年に失った後，1424 年 11 月 30 日に叔父ヌヴェール伯の未亡人ボンヌ・ダルトワと再婚した。しかしボンヌはネーデルランド方面を訪れることなく，1425 年 9 月 17 日に亡くなった（Prevenier, W. & Blockmans, W., *Les Pays-Bas bourguignons*, Anvers, p. 377）。

(8)　Vander Linden, H.（éd.）, *op. cit.*, p. 49

1426 年 5 月 2 日～13 日	12	善良公に随行
1426 年 6 月 26～27 日，6 月 30 日～7 月 1 日	4	

尚書長に対しては毎日 16 ストープのぶどう酒が贈られた。フィリップ善良公の治世の大半において尚書長を務めたのはブルゴーニュ地方出身のニコラ・ロラン Nicholas Rolin（在職 1422-62）である。「ブルゴーニュ国家」のナンバー 2 として統治全般に辣腕をふるったことで知られる。この期間をみると，善良公に常に随行していたわけではなく，むしろ，善良公が 1425 年 9 月ホラントに出発してから，ブルッヘにしばしば滞在し，君主の留守を守る役割を務めていた。

(3)　貴族・顧問官たち

ここでは，帳簿において個人名ないし伯・領主などの肩書で示される俗人の貴族・顧問官などを示す。37 名のうち 7 名は確認ができなかった。また名前不明の「イングランドの騎士」（表中の 18）を含む。一日あたりの贈与量が多い順に配列し，当該人物が贈与を受けた日数を，ブルゴーニュ公滞在時には「随行」，ブルゴーニュ公が滞在していない時には「単独」と分けてみた。その人物がブルッヘに来たのは主にブルゴーニュ公・宮廷とのつながりによるのか，それともそれ以外に都市ブルッヘに関係があるのか，大まかに判断できると思われるからである。

表 3　貴族・顧問官に対する都市ブルッヘのぶどう酒贈与（1424 年 9 月～1426 年 7 月）

	名	量*	随行	単独	備考[9]
1	クレーフェ公	24	3		アドルフ 1 世（公の義弟），H, 59.
2	ポルトガル王子 dom Pierre	24		3	ジョアン 1 世次男ペドロ，I, 25, 485
3	オランジュ公（Prince）	24/16	2	2	Louis de Chalon, C, 21.

[9]　人物の同定は以下の文献による（表中ではアルファベット略号とその頁。S に関しては付属 CD-ROM 中の人物データ）。

H：Blockmans, W. P.（ed.）, *Handelingen van de Leden en van de Staten van Vlaanderen*（*1419-1467*）, deel III, Brussel, 2006.

B：Van Rompaey, J., *Het grafelijk baljuwsambt in Vlaanderen tijdens de Bourgondische periode*, Brussel, 1967.

S：Dumolyn, J., *Staatvorming en vorstelijke ambtenaren in het graafschap Vlaanderen*（*1419-1477*）, Antwerpen, 2003.

C：de Smedt, R.（dir.）, *Les Chevaliers de l'Ordre de la Toison d'or au XVe siècle*, Frankfurt am Main, 2000.

P：Vaughan, R., *Philip the Good.　The Apogee of Burgundy*, London, 1970.

I：Sommé, M., *Isabelle de Portugal, duchesse de Bourgogne.　Une femme au pouvoir au XVe siècle*, Villeneuve d'Ascq, 1998.

N：Caron, M.-T., *La noblesse dans le duché de Bourgogne 1315-1477*, Lille, 1987.

J：Schnerb, B., *L'Etat bourguignon 1363-1477*, Paris, 1999.

4	サフォーク伯	16	1		William de la Pole, C, 91.
5	Veere 領主	16/12	1	1	Hendrick van Borsele, C, 104–106.
6	騎士 Jean de Luxembourg（サン・ポルの庶子）	16/12	1	1	リニーおよびサン・ポル伯ワルラン 3 世庶子，C, 75–77.
7	St.Joris 領主の子息	12		2	St. Georges 領主 Guillaume de Vienne（C, 3–4）の子か
8	Toulongeon 領主	12		2	Jean de Toulongeon，ブルゴーニュ総督，N, 513.
9	騎士 Jean de Vergy	12		1	ブルゴーニュ世襲セネシャル，C, 70–71.
10	L'Isle Adam 領主	12		1	Jean de Villiers　侍従顧問官，C, 32–33.
11	騎士 Philippe du Bois	12		1	
12	騎士 Guillebert de Lannoy	8	2	1	侍従，外交使節，C, 26–29.
13	Steenhuze 領主	8		4	Felix van Steenhuze en Avergem 前高等バイイ（1422–24），H, 112.
14	meester Jan van den Keythulle	8		5	フランドル顧問会，S.
15	Masmines 領主	8		1	Robert de Masmines, C, 39–42.
16	meester Joos van Steeland	8		1	フランドル顧問会，S.
17	der Capelle 領主	8		1	委任官，H, 89.
18	イングランドの騎士	8		2	2 回。同一人物かどうか不明
19	Roubaix 領主	8	1	2	Jan de Roubaix　主席侍従，C, 6–8.
20	Jan Camphin	8	2	3	フランドル顧問会，S.
21	騎士 Roeland van Uutkerke	8	5		侍従顧問官，C, 9–11.
22	Guy Guillebaut	8	2	2	公の顧問官　全財政総収入役，S. 「総収入役」として計 2 日
23	meester Roeland du Bois	8	1		公の顧問官，H, 65.
24	Godevaert de Wilde	8	2	4	公の顧問官　元フランドル収入役（1420–22），S.
25	meester Jan Doree	8		1	フランドル顧問会，S.
26	Halewijn 領主	8		1	jonkheer Jan van Halewijn, 貴族，H, 83.
27	meester Guy Boye	8		1	フランドル顧問会書記官，S.
28	Ekelsbeke 領主	8		1	Wouter van Gistel, H, 81.
29	Moerkerke 領主	8		2	Lodewijk van Moerkerke，フランドル顧問会，S.
30	meester Willem den Zadelare	8		1	フランドル顧問会，公の顧問官，S.
31	meester Symoen van Formelis	8	1		フランドル顧問会主席　公の顧問官，S.
32	騎士 Jan Steenhuse	8		1	
33	Gervans sBuherzoone	8		1	
34	meester Heinric Sucket	8	1		
35	meester Daneel	8		1	

36	Trecelet dele Bare	8		1	
37	Ghellot Damman	8		1	

*量：一日分として贈与されたぶどう酒の量（単位ストープ）

1 日あたりの贈与量が上位の人物はフランドル外の王侯貴族となっている。しかし全てが宮廷の客人というわけではなく，例えば no. 2 のポルトガル王子は，ヨーロッパ歴訪の旅の途中，1425-26 年にフランドルに滞在していた。no. 8 および 9 のブルゴーニュ出身の貴族も，善良公がいない時期にブルッヘを訪れている。

フランドル出身の貴族や貴族でない顧問官たちはほぼ1日8ストープを受け取っている。no. 21 のように君主滞在時のみ姿を現す者はむしろ少なく，様々な時期に到来している。公の顧問官として，君主側と都市との交渉にあたったり，フランドル統治を司るフランドル顧問会のメンバーとして，都市での業務を行ったりしていた。

なお，この中で no. 5, 6, 9, 10, 12, 15, 19, 21 の 8 名が，この後 1430 年に創設された金羊毛騎士団に選ばれている[10]。金羊毛騎士団はブルゴーニュ家支配下の諸領邦の代表的な貴族や主要な廷臣を集めた「ブルゴーニュ国家」のエリート集団として知られるが，そうした人々がすでに 1420 年代のブルッヘでも活動していたことは興味深い。

(4)　高位聖職者

表 4　高位聖職者に対する都市ブルッヘのぶどう酒贈与（1424 年 9 月～1426 年 7 月）

	職名	量	随行	単独	備考
1	司教	28	1		地名判読不能
2	アミアン司教	16		1	Jean d'Harcourt, P, 219.
3	アラス司教	16	2		Martin Porée，前公の聴罪司祭，J, 226.
4	リエージュ司教	16	1		Jean VIII de Heinsberg, H, 89.
5	トゥルネ司教	12/16	59	54	Jean de Thoisy　前尚書長，公の顧問官，J, 238.
6	テル・ドゥスト修道院長	12		1	ブルッヘの北方リッセヴェーヘに所在するシトー派修道院，H, 75.
7	ブルッヘ，シント・ドナース聖堂参事会長	8	3	15	Raoul le Maire，公の顧問官，P, 190.
8	ブルッヘ，シント・ドナース聖堂主席司祭	8		2	

[10]　no. 10, 12, 15, 19, 21 は 1430 年の騎士団創設時にブルッヘで，no. 6, 9 は 1433 年第 3 回総会時にディジョンで，no. 5 は 1445 年第 7 回総会時にヘントで，金羊毛騎士に選ばれた。

9	ベツレヘム司教	8	1		Laurens Pignon，公の聴罪司祭，H, 103.
10	リエージュ，サン・ランベール聖堂参事会主席司祭	8	4		Heinderic Goethals，公の顧問官，H, 81.
11	シント・アンドリーズ修道院長	8	2	2	Siger de Costere，ブルッヘ近郊のベネディクト会修道院，H, 73.
12	ヴュールネの聖堂参事会長	8	1	1	シント・ワルブルガ聖堂参事会，H, 110.
13	アントウェルペンの主席司祭	8		1	

一日に 28 ストープを贈与された司教の任地がわからないのが残念だが，基本的に，主要な司教には一日 16 ストープとなっている。これらの司教の多くはブルゴーニュ公家と密接な関係にあった。とりわけ注目できるのがトゥルネ司教である。トゥルネはブルゴーニュ公の支配地外にあったが，ブルッヘ含めてフランドルの大半はトゥルネ司教区に属していた。1410 年に司教位に就いた Jean de Thoisy は，フィリップ善良公の尚書長を 1419 年から 1422 年まで務め，その後も 1433 年に亡くなるまで重要な顧問官であった。この帳簿の期間 2 年足らずの間に 100 日以上ブルッヘに滞在していたことになる。先に述べた君主，尚書長に並び，贈与対象者の中で群を抜いている。そしてこのトゥルネ司教に対しては，滞在の最初の日に 16 ストープ，次の日以降は一日 12 ストープを贈るというパターンがみられる。都市側としても通常の司教とは別に扱っている。

その他はテル・ドゥスト修道院長以外一日 8 ストープで統一されている。その中で，ブルッヘのシント・ドナース聖堂参事会長には比較的多くの贈与の機会があった。この職は古来からフランドル伯家と都市ブルッヘに深く関わっていた。

(5)　役人たち

表 5　フランドルの役人に対する都市ブルッヘのぶどう酒贈与（1424 年 9 月～1426 年 7 月）

	職名	量	日数	備考 *
1	スライス水域バイイ	8/12	17	Pierre Metteneye（1423-1426.7.3）（15 日） Jehan le Baenst（1426.7.3-1433）（2 日），B, 646.
2	フランドル顧問会総代訟官	8/12	2	Lieven van de Winkle, S.
3	高等バイイ	8	9	Jean de la Clyte（Comines 領主），B, 614.
4	フランドル収入役	8	2	Gautier Poulain, H, 104.
5	ブルッヘのバイイ	8	5	mer Clais Utenhove, B, 620.
6	ブルッヘのスハウト	8	7	Barthelemi le Vooght, B, 621.

7	スライスのバイイ	4	4	Jehan le Baenst, B, 645.
8	ダムのバイイ	4	2	Robert le Brune, B, 622.
9	モニケレーデのバイイ	4	1	George de Joingny, B, 636.
10	オーステンデのバイイ	4	1	Jehan Obrechts dit le Juede, B, 619.
11	アールデンブルフのバイイ	4	1	Jehan van der Stichele, B, 617.
12	ニューポールトのバイイ	4	1	Sohier de Bailleul, B, 637.
13	ティールトのバイイ	4	4	Thielman de Buggheselle（1423-1426.4.30）（3 日） Rogier le Coninc（1426.4.30-1432）（1 日），B, 647.
14	ダムの通行税徴集役	4	1	
15	ブルッヘのスハウトの下役たち	16	1	
16	カッセルの収入役	4	1	
17	デュインケルケのバイイ	4	2	
18	フラフェニンゲのバイイ	4	1	

*この期間中に交代した場合のみ在職期間とそれぞれ贈与を受けた日数を示した。

職名で表記された人々については，フランドル内の役職とそれ以外に分けて示した。まずフランドル内では，no. 15 の集団を例外にすれば，基本的に一日の贈与が 8 ストープ（12 ストープの事例もあり）と 4 ストープのランクに分かれる。一日 8 ストープのランクは no. 2〜4 のようなフランドル伯領全体を管轄とする役職および都市ブルッヘと密接にかかわるバイイたちである。とりわけ no. 1 のスライス水域バイイは贈与を受けた日数で目立っている。スライスはブルッヘと北海をつなぐズヴィン川の出口にある小都市で，水域バイイはブルッヘの外港となるスライス港の治安に責任を持っていた。当時は海上での私掠行為が頻繁に起こり，外国商人との紛争が絶えなかったため，水域バイイは繰り返しブルッヘに現れていた。また，ブルッヘのバイイはブルッヘ周辺地域，スハウトはブルッヘ市内を管轄し，市政団と深いつながりがあった。彼らには，上記の表の贈与だけでなく，後述する市政団への贈与の際にも言及がある。

一日 4 ストープのランクでは，no. 7〜13 はブルッヘ近郊小都市を管轄とするバイイとなっている。また，no. 16〜18 もフランドル西部の地域に関わる役人だが，ブルゴーニュ公（= フランドル伯）の配下にはない。この地域のフランドル伯の所領は 14 世紀半ば以来フランドル伯家の傍系からバール公家へと移っていたからである[11]。しかし地域の大

(11) Bautier, R.H., Sornay, J. & Muret, F., *Les sources de l'histoire économique et sociale du moyen-âge. Les Etats de la maison de Bourgogne, I, Archives des principautés territoriales, 2. Les principautés du Nord*, Paris, 1984, pp. 226-227.

都市であるブルッヘとは様々な関係を持つ必要があったと思われる。

一方，フランドル外の役職者の事例は多くない。この中ではフランス尚書長が一日 24 ストープと，王侯貴族級の待遇を受けている。また，ホラント継承戦争の関連からかホラントの役職者が目立つ。

表 6　フランドル外の役職者に対する都市ブルッヘのぶどう酒贈与（1424 年 9 月～1426 年 7 月）

	職名	量	日数	備考
1	フランス尚書長	24	1	公の滞在時
2	ホラント顧問会の人々	16	1	
3	ホラント財務官エグモント領主	16	1	公の滞在時　Willem van Egmond, H, 77.
4	ホラント会計官	16	1	公の滞在時
5	ブラバント会計官	16	1	公の滞在時
6	フランシスコ会の役人	8/12	2	
7	摂政の使節	8	2	公の滞在時　ベドフォード公の使節か
8	スコットランド王の顧問官 meester Thom	8	1	
9	マルク伯領収入役	8	1	
10	トゥルネ司教裁判所役人	4/8	3	

(6)　他都市・他地域の使節

この中ではまず，贈与の回数において突出するヘントとイープルを取り出し，次いでフランドル内，フランドル外に分けて整理する。

表 7　ヘントとイープルの使節に対する都市ブルッヘのぶどう酒贈与（1424 年 9 月～1426 年 7 月）

ヘント	量	日	イープル	量	日
	4	2		4	3
	8	13		8	18
	10	1		10	1
	12	12		12	10
	16	1		16	3
	20	1		20	2
	52	2	（ペンショナーリス）	4	7
（meester Jan van Gend を含めて）	20	1	meester Andries van Doway	4	1
（ヘントのバイイを含めて）	20	1	mer Michiel van Scoten	4/8	2

（ペンショナーリス）	4	10	ヘントとイープル	8	2
（同業組合グループ長）	8	1		12	1
meester Heinric Utenhove	4	1		20	3
Jan Boele	4	1		24	1
Victoor vander Zickelen	8	1	（両都市のペンショナーリス）	8	1
Jan Sersandars	8	1	ヘントとイープルとスライス	28	1

表 8　フランドルの都市・地域の使節に対する都市ブルッヘのぶどう酒贈与（1424 年 9 月～1426 年 7 月）

都市・地域名	量	日数	都市・地域名	量	日数
ヴュールネ	4/8	3	デュインケルケ	8	1
ヴュールネ・アンバハト	4/8	5	ムイデ	4/6/8/12	8
ヴュールネとベルグ	12/24	2	オーステンデ	8	5
ベルグ	6	1	ダム	4/8/16/20	8
アールデンブルフ	4/8	12	（同ペンショナーリス）	4	1
モニケレーデ	4/8/12	3	ヒステル	6/8	2
スライス	6/8/12/16	17	ディクスマイデ	4	1
（同贈与役）	4	2	フッケ	4	1
ニューポールト	8	3	エークロー	8	1
（同ペンショナーリス）	4	1	カプレイケ	8	1
ニューポールトとデュインケルケ	16	1	リル	8	1
			（同ペンショナーリス）	4	3

表 9　フランドル外の都市の使節に対する都市ブルッヘのぶどう酒贈与（1424 年 9 月～1426 年 7 月）

都市・地域	量	日数	都市・地域	量	日数
トゥルネ	8/16	4	リューベック	12	19
カンブレ	6	1	ケルン	12	19
メヘレン	12	1	リューベックとケルン	?/36	2
（同ペンショナーリス）	4	1	ハンブルク	12	19
サン・トメール	8	1	ダンチヒ	8	8
（同ペンショナーリス）	4	1	シュトラールズント	8	8
リール（ペンショナーリス）	4	1	リガ	8	8
ブリュッセル（ペンショナーリス）	4	1	ダンチヒ，シュトラールズント，リガ	24	12
アントウェルペン（ペンショナーリス）	4	1			
ディナン	8	1			

表7のように，ヘントとイープルの使節が頻繁にブルッヘを訪問するのは，主に，これらフランドルの三大都市とシャテルニーのブルフセ・フレイエからなる四者会議のためである。なお，フレイエの役所がブルッヘ市内に置かれていたからなのか，フレイエの人々にはぶどう酒は全く贈られていない。

ヘントとイープルどちらに対しても機会によって様々な量が贈られている。これはその時の使節の人数によるのだろう。ペンショナーリス（都市官職）1名への贈与量4ストープが基準となるだろう。52ストープが贈られた日（1426年5月12・17日）には，ヘントから13名が参加していた[12]。ちょうど一人あたり4ストープである。ただし両都市の代表なのに個人名義で贈与されている中には，8ストープの場合もある。各都市ではなく両都市にまとめて贈与する例もみられる。その場合どんな割合でぶどう酒を分けたかはわからないので，別に区分した。両都市とスライスが一緒の場合もあった。

表8については，ほとんどはブルッヘ周辺から西フランド沿岸地域の小都市・地域である。とりわけブルッヘに位置的に近いアールデンブルフ，スライス，ダムの日数が多い。量は一日あたり4〜24ストープ（数都市まとめての場合含む）となっている。

表9では，フランドルに隣接する地域の諸都市とともに，ドイツ・ハンザ諸都市からの使節に注目できる。彼らへの贈与の記録は1425年夏に集中している。この時，ハンザは私掠の損害をフランドル側に訴えており，6〜7月と8〜9月にハンザの使節団とフランドル四者会議・ブルゴーニュ公がブルッヘで交渉を行った[13]。贈与帳簿ではハンザ6都市の名が挙がるが，各都市がそれぞれ列挙される場合と，数都市ずつ一括される場合がある。一括される時は必ずリューベック・ケルンとダンチヒ・シュトラールズント・リガの組み合わせで，前者が優先されていた。

(7)　団体その他

表10　団体に対する都市ブルッヘのぶどう酒贈与（1424年9月〜1426年7月）

贈与先	量	贈与日
宗教団体		
フランシスコ会	32	1424.10.4, 1425.10.4（聖フランチェスコの祝日） その他1回（1425.6.26）

(12)　Blockmans, W. P.（ed.）, *Handelingen van de Leden en van de Staten van Vlaanderen*（*1419-1467*）, deel I, Brussel, 1990, pp. 293-294.

(13)　*Ibid.*, pp. 246-247, 253-256.

ドミニコ会	32	1425.8.5（聖ドミニコの祝日 8.4）
クララ会	32	1425.8.12（聖クララの祝日）
カルメル会	32	1425.8.16
アウグスティヌス会	32	1425.8.28（聖アウグスティヌスの祝日）
シント・ドナースのロバ教皇[14]	16	1425.1.13
エークハウト修道院	16	1425.8.24（修道院の守護聖人聖バルトロマイの祝日）
シント・ドナース聖堂のシント・バルバラ・ギルド	8	1424.12.4, 1425.12.4（聖バルバラの祝日）
その他		
弩射手たち	32	1426.6.29
老射手の団体 / 老射手	22	1425.6.3, 1426.5.26
若い射手たち	16	1426.6.9
君主の射手たち	16	1425.6.16
警備役たち	8	1425.1.9, 1426.1.7

前節までに挙げた以外の贈与先として，ブルッヘ内外の団体や集団をまとめたのが表 10 である。宗教団体はいずれもブルッヘ市内の修道会や宗教的ギルドであり，これらに対しては関連の祝日に贈るのが慣例だったようである。その他の団体では，射手や警備役たちに贈与が行われた。なおこの他に, 経緯は不明だが「イングランドの修道士」,「スコットランドの商人」, ブルッヘ市民の Willem Gheerlof にそれぞれ 4 ストープが贈られている[15]。また，2 件について判読ができなかった。

3.　1424–1426 年の市政団への贈与

表 11　ブルッヘ市政団へのぶどう酒贈与

1424 年 9 月～1425 年 8 月

日付	事由	量*	購入先	他の対象者
9.2	都市役職の改選	6 z. 8 st.	Jan Scuppelin	
10.25	紛争の裁定	4 z. 8 st..	Willem van Gremberghe in den Haze	
11.8	紛争の裁定	4 z. 10 st.	Pieter Bustijn	

(14)　ブルッヘで毎年 1 月 7～13 日に宗教行列を伴って開催されていた「ロバ教皇の祭典」(愚者の祭典)（河原温『ブリュージュ　フランドルの輝ける宝石』中央公論新社, 117 頁）に関係すると思われる。しかし次年度の帳簿には記録がみられない。

(15)　それぞれの日付は，1425.5.19, 1426.5.18, 1426.6.30.

11.10	聖マルティヌス祭前夜	17 z. 9 st.	Janneke Wellens	
11.21	会計業務	記載なし[16]	Pieter Bustijn	前市長たち
12.12	紛争の裁定	6 z. 10 st.	Pieter Bustijn	
12.25	クリスマス	17z. 9 st.	Pieter Bustijn	
1.23	紛争の裁定	65 st.	Pieter Bustijn	
3.22	市庁舎での食事	17 z. 15 st.	Pieter Bustijn	公，司教，貴族たちなど
4.8	復活祭	17 z. 2 st.	Pieter Bustijn	
5.2	聖血の行列	35 z. 5 st	Pieter Bustijn	公，トゥルネ司教
	同	55 z. 13 st.	Jan de Wieede	
5.24	紛争の裁定	71 st.	Pieter Bustijn	
5.26	聖霊降臨祭	16 z. 12 st.	Pieter Bustijn	
6.11	紛争の裁定	75 st.	Pieter Bustijn	
7.2	紛争の裁定	71 st.	Pieter Bustijn	
7.19	紛争の裁定	73 st.	Pieter Bustijn	
8.31	不明	17 z. 10 st.	Pieter Bustijn	

1425 年 9 月～1426 年 7 月

日付	事由	量	購入元	
9.2	都市役職の改選	判読不能	判読不能	
10.19	紛争の裁定	120 st.	in de［Blenden］Ezel	
10.30	紛争の裁定	73 st.	Pieter Bustijn	
11.8	紛争の裁定	77 st.	Pieter Bustijn	
11.10	聖マルティヌス祭前夜	17 z. 10 st.	Pieter Bustijn	
12.11	紛争の裁定	77 st.	Janne de Wieede in de Orscamp	
12.25	クリスマス	18 z. 5 st.	Pieter Bustijn	ポルトガル王子
1.23	紛争の裁定	77 st.	Pieter Bustijn	
3.14	不明	17 z. 12 st.	Pieter Bustijn	
3.31	復活祭	18 z. 5 st.	Pieter Bustijn	公
5.2	聖血の行列	30 z. 4 st.	Andriese vanden Wevre	公，聖職者，修道院など
	同	23 z. 3 st.	Jacob Xpiaens	
	同	14 z.	Paes den Grave	
	同	27 z.	in de Muerte	

(16)　支払金額（22 スケリンゲン 8 と 2 分の 1 グロート）とストープあたり 7 グロートの記載から計算してみると約 39 ストープ（2 ゼステル 7 ストープ）となる。

5.19	聖霊降臨祭	16 z. 13 st.	Wouter in de Muerte	
6.19	紛争の裁定	76 st.	Paes den Grave	
7.18	紛争の裁定	77 st.	Pieter Bustijn	

*単位　z（=zester), st.（=stoop）

前掲の 1.（2）で触れたように，ぶどう酒贈与帳簿にはブルッヘの市政団への贈与も記載されている。1424-25 年度には 19 回，1425-26 年度には 14 回が数えられる。多くの場合では贈与対象を列挙する際に市長・参審人・評議員などの他，ブルッヘのバイイとスハウトも含められている。また，ブルゴーニュ公，聖職者などが含められている場合もあった。

最も多い機会は紛争の裁定である。しばしば「裁判日」dinghedach van twiste と記載されている。これらの日の贈与量は 4〜6 ゼステル（ストープ単位で記載されている場合もゼステルに直すとその程度の量となる）と，他の場合に比べて少ない。市政団の中でその日に裁判を担当した者たちへの支給と考えられる。

次に，重要な祝日であるクリスマス，復活祭，聖霊降臨祭および 11 月 10 日聖マルティヌス祭前夜に贈与が行われた。これらの日の贈与量は 17 ゼステル前後で，市政団全員への贈与はこのような規模になるだろう。1425 年のクリスマスにはポルトガル王子，1426 年復活祭には滞在中のブルゴーニュ公も対象として言及されており，総量が若干増えている。

そして 9 月 2 日の役職改選，5 月 2 日の聖血の行列は都市恒例の行事であった。1426 年 3 月 14 日の贈与は事由が書かれていないが，前年同時期の市庁舎での食事の際と同様の量が贈与されており，恒例行事だったのかもしれない。とりわけ，聖血の行列は，聖地から持ち帰られたと伝えられるキリストの聖血の聖遺物を掲げて練り歩く，ブルッヘ最大の行事であり，多くの招待者が招かれた[17]。この記録にみる 2 年度ともブルゴーニュ公が同席している。それに伴い 1425 年は 2 か所から，1426 年は 4 か所から大量のぶどう酒が購入された。

結び

都市ブルッヘのぶどう酒贈与については，都市会計簿では総額だけが記されるが，断片

(17)　河原，前掲書，118-125 頁。

的にのみ残された贈与帳簿は，贈与の日付，対象，贈与量，価格など様々な情報を含んでいる。本稿では 1424–1426 年の 2 冊の帳簿について，贈与の対象ごとに整理を試みたが，そこから浮かび上がる都市ブルッヘの贈与の特徴について若干指摘したい。

贈与の対象者は君主ブルゴーニュ公を筆頭に，王侯貴族，高官，他都市の使節，自都市の団体など多岐に及ぶ。これらの人々は贈与の際にぶどう酒の種別や価格よりは一日あたりの贈与量によって格付けされていた。最大量 32 ストープはブルゴーニュ公のみで，概ね，外国の王侯は 24 ストープ，司教・尚書長は 16 ストープ，他地域の貴族は 12 ストープ，フランドルの貴族･顧問官･中央官職者は 8 ストープ，バイイと都市の使節は（1 人あたり）4 ストープが基本で，場合によって若干の増減を施したと考えられる。

そして対象者はフランドル，近隣のブラバント，ホラント，あるいはブルゴーニュ公の支配地にとどまらず，スコットランド，イングランド，フランス，ポルトガル，バルト海沿岸からも到来しており，ブルゴーニュ宮廷および都市ブルッヘの交際がヨーロッパ各地に及んでいたことを示している。これらの人々は入れ代わり立ち代わりブルッヘを訪れており，ぶどう酒贈与帳簿では 1 週間以上記録がないということはめったになかった。

帳簿が連続的に残っていないため，以後の時期にブルッヘのぶどう酒贈与の様子がどう変化していくかを知ることはできない。しかしわずかに残る 1460 年代，1480 年代の帳簿や，他都市の同様の帳簿との比較が行われるならば，都市の贈与や君主の宮廷との関係についてより広範な認識を得ることができるだろう。

［付記］　本稿は，JSPS 科研費 JP16K03117 の助成を受けた研究成果の一部である。